

入院診療計画予定表

大腿骨頸部骨折に対し骨接合術を受けられる方へ

() 様 担当医 () 担当看護婦 () 担当理学療法士 ()

経過	入院日 / ()	手術当日 / ()	術後1日 / ()	術後2日 / ()	術後3~4日 / () ~ / ()	術後5日 ~ 3週 / () ~ / ()
食	<input type="checkbox"/> 食事は夕食まで <input type="checkbox"/> 飲水は22時まで	<input type="checkbox"/> 褥瘡、お腹の動く音を 確認後、飲水できます その後、食事出来ます	<input type="checkbox"/> 別府ありません			
活 動	<input type="checkbox"/> 痛みに応じてベッドで 引っ張ります (高くないように)	<input type="checkbox"/> 手術が終わって、3時間 はベッド上安静です	<input type="checkbox"/> 回復で訓練します <input type="checkbox"/> 歩けます		<input type="checkbox"/> リハビリにて訓練開始です <input type="checkbox"/> 平行棒内での起立から徐々に 歩か始めます	
リ ハ ビ リ	<input type="checkbox"/> 訓練の指導・説明 おこないます 	入院治療計画		<input type="checkbox"/> 車椅子で移動出来ます	<input type="checkbox"/> 個人個人で痛み具合が違いますが 次のページを参考に受傷前の移動レベル 獲得を目標に頑張ってください	
排 泄	<input type="checkbox"/> 排便の確認をします	<input type="checkbox"/> 術後おしっこの方が はいています	<input type="checkbox"/> おしっこの管が抜けて からトイレで可能です			
処 置	<input type="checkbox"/> 必要に応じて毛を 剃ります		<input type="checkbox"/> ガーゼ交換があります (月・水・金・土曜)		<input type="checkbox"/> 術後8日目までに全抜糸です <input type="checkbox"/> 全抜糸後次のガーゼ交換日に 傷口の確認があります	<input type="checkbox"/> 傷口の確認後シャワー浴可能 次第に入浴できます
内 服	<input type="checkbox"/> 待参薬の確認	<input type="checkbox"/> 麻酔科医の指示にて薬の 調整をすることがあります	<input type="checkbox"/> 術前に化膿止めの点滴が あります	<input type="checkbox"/> 術夕化膿止めの点滴があります 術後2日目で終了です		
注 射	<input type="checkbox"/> 必要に応じて鎮痛剤 (坐薬) 使用	<input type="checkbox"/> 必要に応じて鎮痛剤 (注射) 使用	<input type="checkbox"/> 必要に応じて鎮痛剤 (坐薬) 使用	<input type="checkbox"/> 必要に応じて鎮痛剤 (坐薬) 使用		
検 査	<input type="checkbox"/> 必要時に血液検査・ 他科受診があります		<input type="checkbox"/> 血液検査	<input type="checkbox"/> 血液検査 <input type="checkbox"/> レントゲン撮影		
説 明	<input type="checkbox"/> 入院時説明 <input type="checkbox"/> 手術時説明 ・ 麻酔科医師診察 <input type="checkbox"/> 手術室看護婦説明	<input type="checkbox"/> 術後説明 		<input type="checkbox"/> 経過説明 		

※術後合併症がなく、受け入れ可能な施設があれば、転院となる場合があります。

転院の可能性を明記

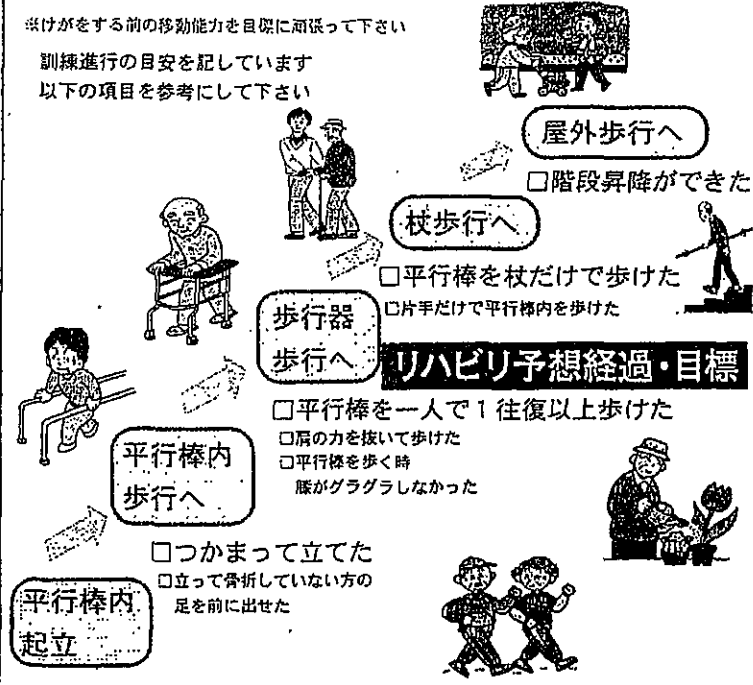
国立熊本病院 整形外科

最終達成目標(予想ゴール)

リハビリの途中段階で他の施設へ転院される患者様も
転院先の病院で同じ様にリハビリが進められます

※けがをする前の移動能力を目標に頑張ってください

訓練進行の目安を記しています
以下の項目を参考にしてください



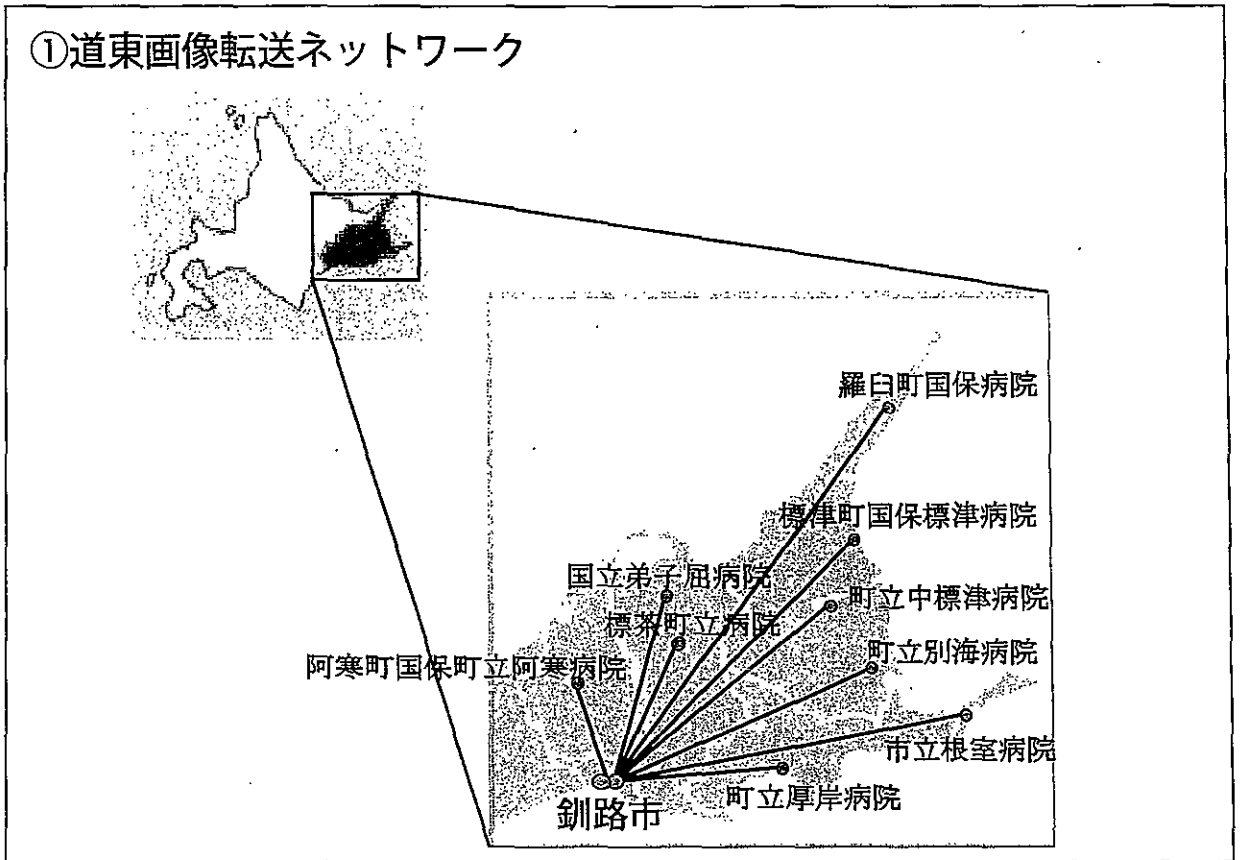
さらに必要なリハビリは主治医の訓練を参考に頑張ってください



国立熊本病院 整形外科

大腿骨頸
部骨折の患者用連
携パス

①道東画像転送ネットワーク



地域医療ネットワーク

釧路脳神経外科病院

町立別海病院

画像管理機能
レポートシステム
Web 配信機能

遠隔用サーバ (別海)

依頼画像の転送
(釧路脳神経外科病院←町立別海病院)

レポートの参照、画像の参照
(釧路脳神経外科病院→町立別海病院)

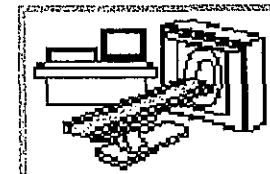
画像管理機能
レポートシステム
Web 配信機能



遠隔用サーバ (根室)

依頼画像の転送
(釧路脳神経外科病院←市立根室病院)

レポートの参照、画像の参照
(釧路脳神経外科病院→市立根室病院)

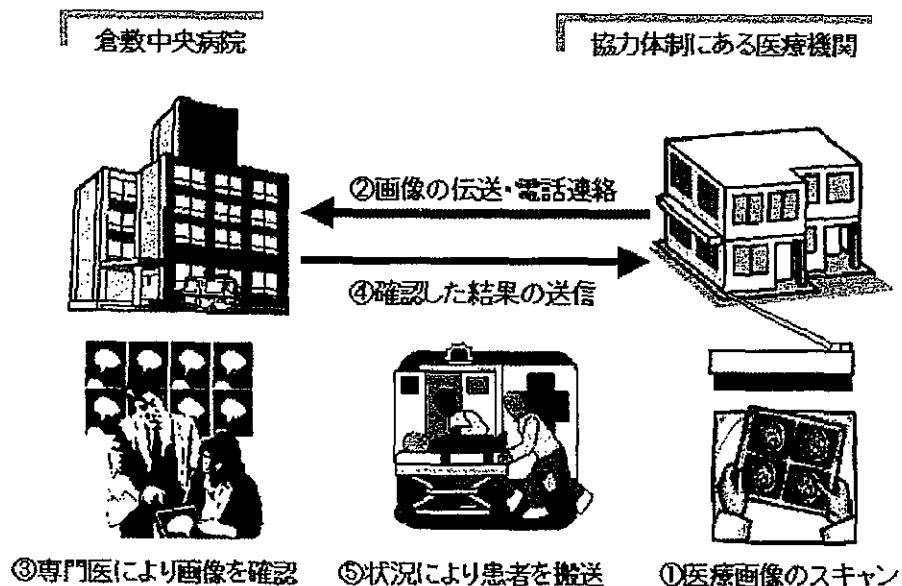


読影端末
依頼画像の参照
レポートの入力
依頼患者の検査画像の伝送

市立根室病院

1. 概要

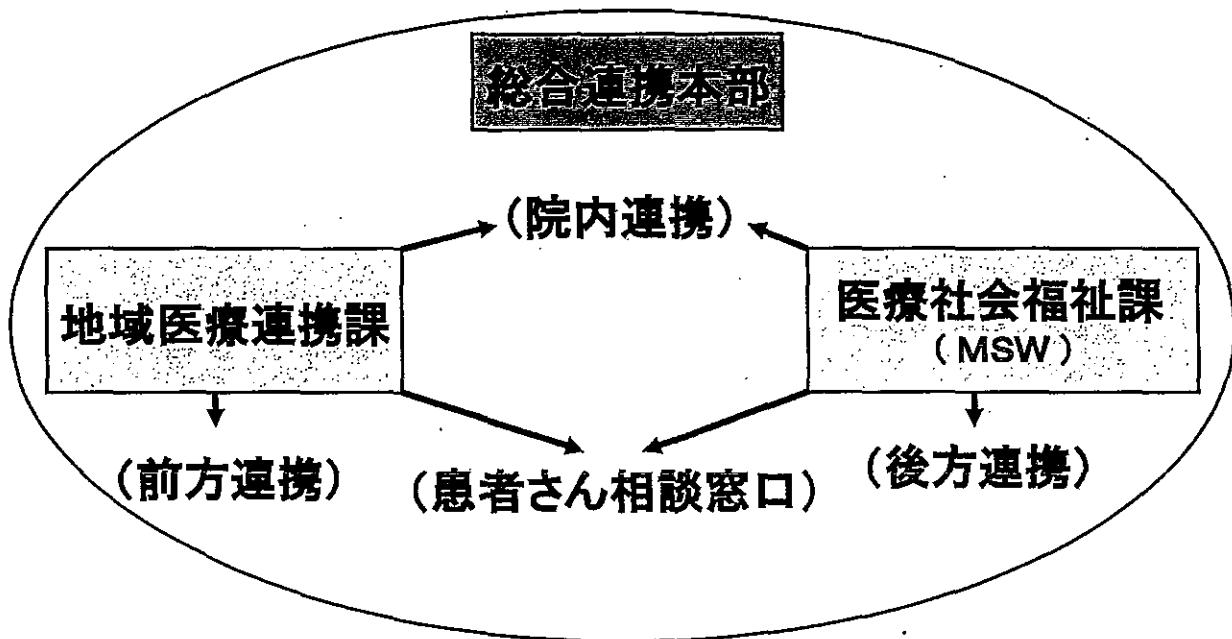
当院では、脳神経外科領域において25医療機関と連携しています。



2. 連携医療機関一覧

医療機関名	所在地
泉中央診療所	総社市
上田記念病院	鴨方町
大杉病院	高梁市
笠岡市立市民病院	笠岡市
勝山病院	勝山町
吉備高原医療リハビリテーションセンター	賀陽町
国定病院	里庄町
倉敷廣済病院	倉敷市
倉敷市立児島市民病院	倉敷市
倉敷成人病センター	倉敷市
倉敷第一病院	倉敷市
倉敷リバーサイド病院	倉敷市
佐藤胃腸科外科病院	倉敷市
重井医学研究所付属病院	岡山市
しげい病院	倉敷市
長野病院	総社市
成羽町国民健康保険成羽病院	成羽町
新見中央病院	新見市
美星町国民健康保険病院	美星町
真備中央病院	真備町
水島協同病院	倉敷市
みわ記念病院	金光町
矢掛町国民健康保険病院	矢掛町
やまな病院	倉敷市
山本整形外科医院	倉敷市
渡辺胃腸科外科病院	倉敷市

財団法人竹田総合病院の新たな診療連携体制づくり



2次医療圏における近未来の連携システム

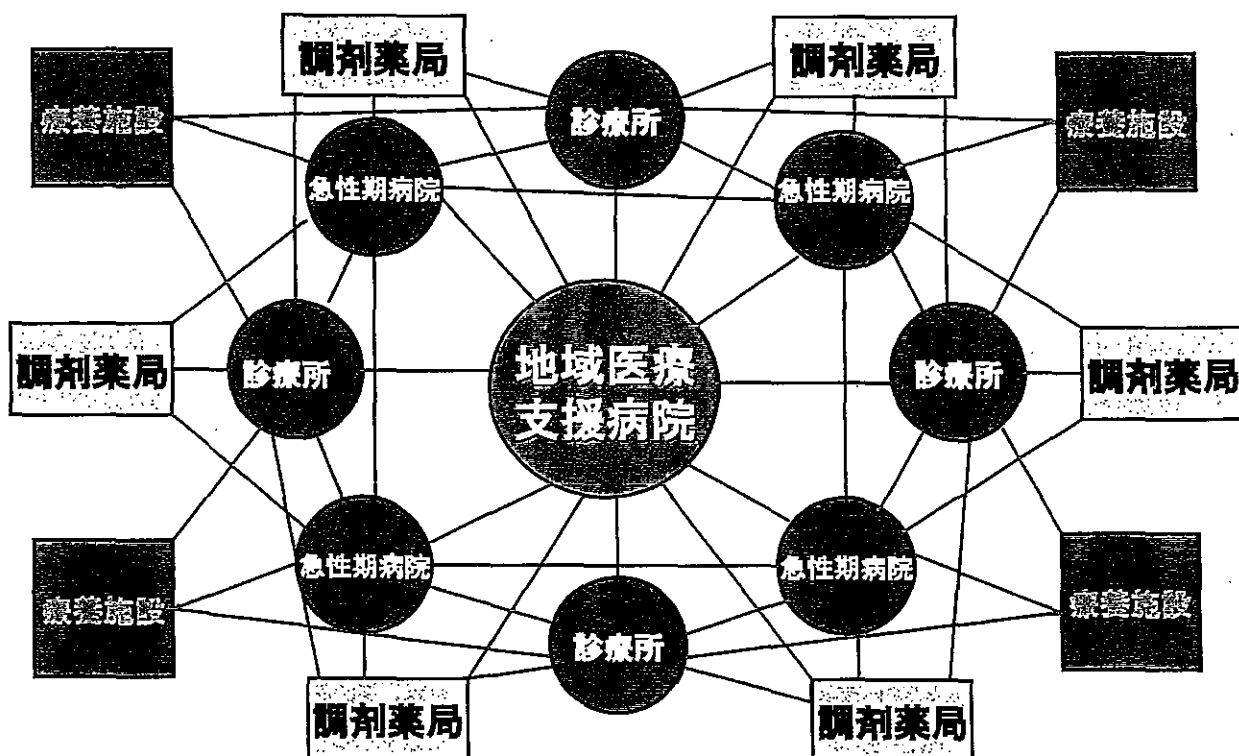


図2-1 冠動脈形成術施行後の連携パス

(6ヵ月フォロー)

医師 財団法人竹田総合病院 循環器科 医師

患者氏名 _____ 様 発症日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 退院日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

病名 _____ 今回発症部位&治療状況 _____

竹田総合病院循環器科			経過 日時	先生	
退院日	14日後	6ヶ月後		28日後以降	6ヶ月後
		<ul style="list-style-type: none"> 心筋シンチの結果により心臓カテーテル検査や治療が必要な時は予定いたします。 内服薬が変更になる場合があります。 	治療薬剤(内服)	定期的な内服継続	<ul style="list-style-type: none"> 胸痛があった時は、すぐにかかりつけ医にご連絡ください。 内服薬が変更になる場合があります。
	採血 PT FBS, HbA1c T-CHO, HDL-CHO, TG	<ul style="list-style-type: none"> 負荷心筋シンチ施行(運動負荷・ベリンカ負荷)朝・昼食禁 	検査処置	定期的な採血 心電図検査	
<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり 	<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり 	<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり 	安静度	<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり 	<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり
塩分制限食 Na g Kcal	塩分制限食 Na g Kcal	塩分制限食 Na g Kcal	食事		塩分制限食 Na g Kcal
シャワー浴可 入浴可	<ul style="list-style-type: none"> シャワー浴可 入浴可 		清潔		
竹田病院担当医(看護師)より、退院後の生活について説明があります。	<ul style="list-style-type: none"> 次回より _____ での診察 診療情報提供書持参 	<ul style="list-style-type: none"> 心筋シンチ結果説明 竹田病院 担当医	患者様御家族への説明		<ul style="list-style-type: none"> 検査前日に外来より確認の電話連絡がはいります かかりつけ医の先生は患者様の状態を診療情報提供書でお知らせ下さい

あなたの身体は、 _____ 医師と竹田総合病院が協力して治療を進めていきます。体調がすぐれない時はすぐにかかりつけ医にご相談ください。

図2-2 ペースメーカー挿入後の連携パス

医師 財団法人竹田総合病院 循環器科 医師

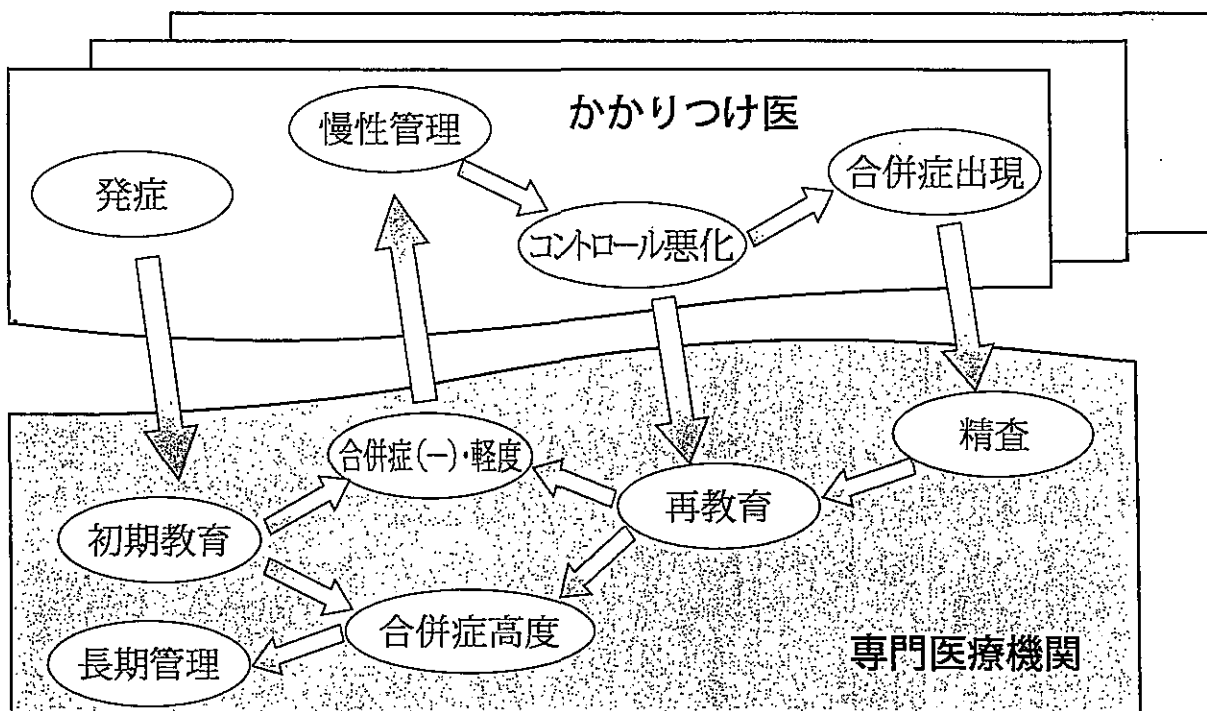
患者氏名 _____ 様 発症日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 退院日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

病名 _____ 今回植え込み機種 _____

竹田総合病院循環器科			経過 日時	先生	
退院日	14日後	6ヶ月後		28日後以降	6ヶ月後
			治療薬剤(内服)		
	採血	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカーチェンジのための検査 心電図 胸部X-P 	検査処置	定期的な採血 心電図検査	
<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり 	<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり 	<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり 	安静度	<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり 	<ul style="list-style-type: none"> 制限なし 制限あり
塩分制限食 Na g Kcal	塩分制限食 Na g Kcal	塩分制限食 Na g Kcal	食事		塩分制限食 Na g Kcal
シャワー浴可 入浴可	<ul style="list-style-type: none"> シャワー浴可 入浴可 		清潔		
竹田病院担当医(看護師)より、退院後の生活について説明があります。	<ul style="list-style-type: none"> 次回より _____ での診察 診療情報提供書持参 	竹田病院 担当医	患者様御家族への説明		<ul style="list-style-type: none"> 定期検査日前日に外来より確認の電話連絡がはいります かかりつけ医の先生は患者様の状態を診療情報提供書でお知らせ下さい

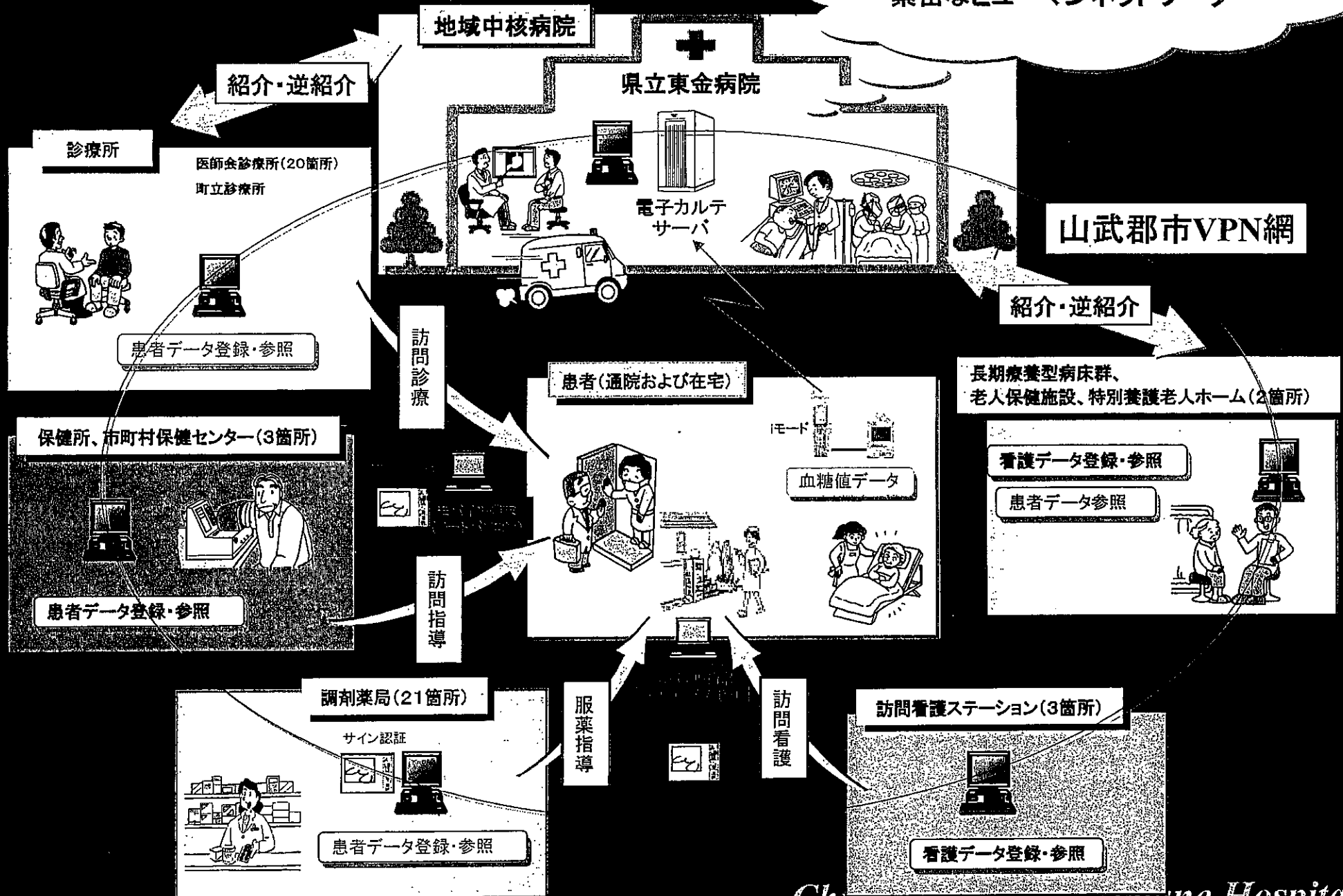
あなたの身体は、 _____ 医師と竹田総合病院が協力して治療を進めていきます。体調がすぐれない時はすぐにかかりつけ医にご相談ください。

糖尿病医療連携システム

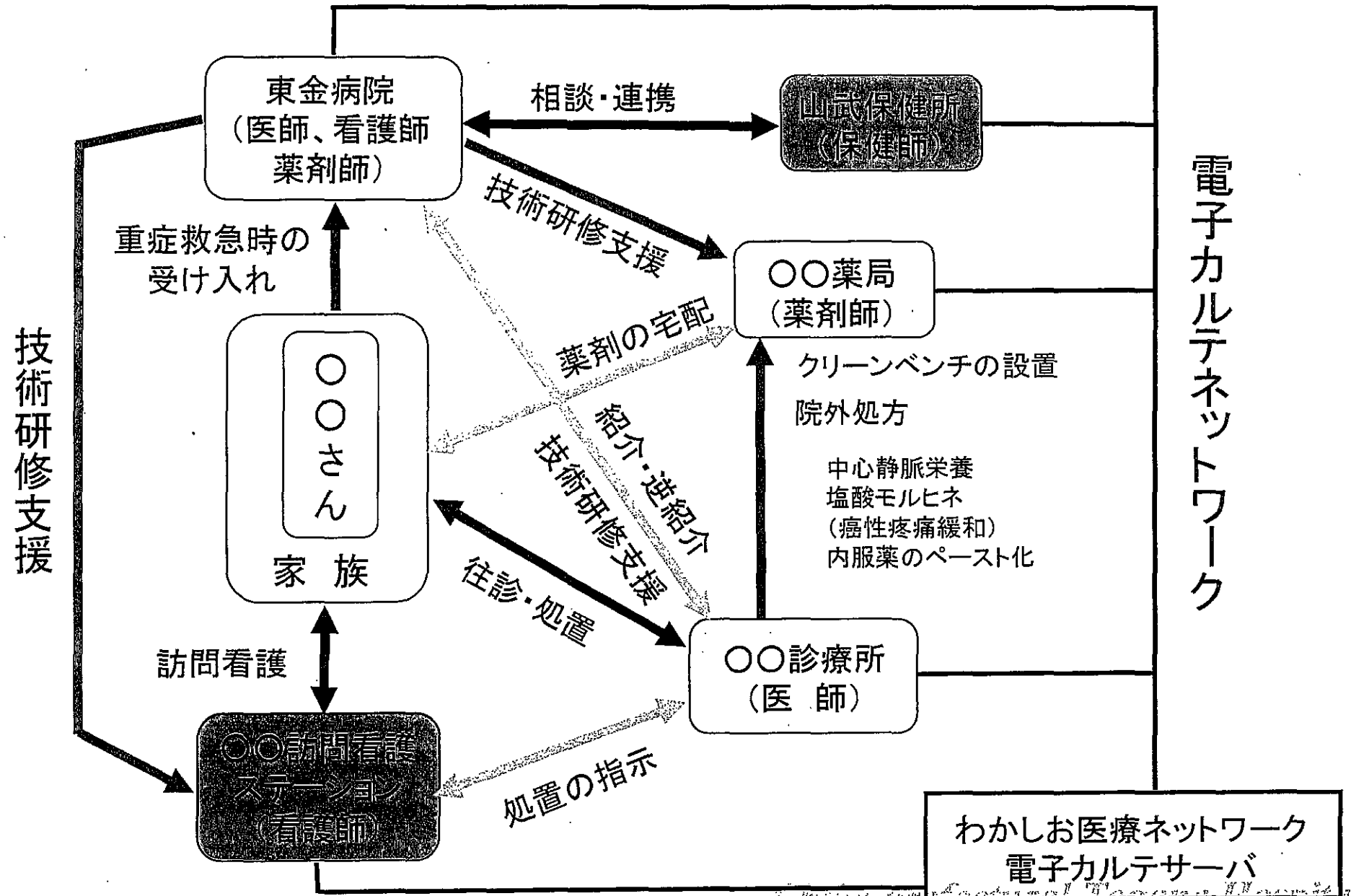


わかしお医療ネットワーク Ver 2.0 (2003-)

定期的研修会に裏打ちされた
緊密なヒューマンネットワーク

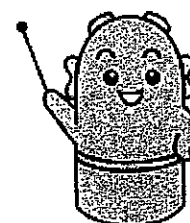


わかしお医療ネットワークによる在宅ホスピス支援システム —在宅中心静脈栄養療法を中心に—



(1)開発システム(宮崎健康福祉ネットワーク、通称「はにわネット」)の概要

患者、診療所、病院、薬局、検査センタで利用可能な電子カルテおよび共同利用サーバを開発し、EBMや経営分析の情報収集・活用を実現する全県的でセキュアな健康福祉情報ネットワークを構築します。



「はにわネット」の特徴として、以下の3つを挙げることができます。

- ・二種類の電子カルテの新規開発
- ・セキュアネットワークとアクセス管理機能
- ・システム間連携のオープン化・疎結合化

以下、これらの特徴を含めて、概要を説明します。

診療所外来電子カルテ(以下「ドルフィン電子カルテ」と称します)とWebブラウザで入力参照可能な電子カルテ(以下「Web電子カルテ」と称します)の二種類の電子カルテシステムを開発し、利用者と目的に応じて使い分けます。いずれの電子カルテシステムとも、確定保存時に、文書のアクセス権を設定可能であり、情報の共有範囲を自由に管理可能です。

患者は、Web電子カルテを利用して、自身のカルテを参照し、日々の健康記録を入力します。健康記録は、日常の客観的データを医療機関に提供し、さらに、医療機関と患者のコミュニケーション手段となります。また、Web電子カルテのEBMデータ収集機能を用いることにより、患者へ直接、アンケート形式で調査も可能です。

診療所では、ドルフィン電子カルテを用いて、オーダーリングや診療の記録を行います。ドルフィン電子カルテは、CLAIMフォーマットで日本医師会が開発したレセプトコンピュータ(以下「ORCA:仮称」と称します)と接続され、窓口会計処理が行われます。

病院では、ドルフィン電子カルテもしくはWeb電子カルテを用いて、アクセス権のあるカルテを参照し、紹介状(逆紹介状)の入力を行います。

薬局では、Web電子カルテを用いて、院外処方箋を持参した患者のカルテを参照し、服薬状況などを入力します。従来、医薬連携において、薬剤師から医師への情報伝達手段が希薄でしたが、本「はにわネット」は、有効な伝達手段を提供します。

検査センタは、検査結果を迅速に、ネットワークセンタ(以下「はにわネットワークセンタ」と称します)経由で検査の依頼元の医療機関に送信します。また、検査結果患者i-Mode通知システムにより、患者に検査結果が届いたことを知らせ、患者はWeb電子カルテにより結果を参照できます。